

InDesign + MS Wordで図る効率化

InDesignと親和性の高いMS Word。本文中のルビや色文字など、Wordのスタイルを活かしたままInDesignに取り込むことが可能です。上手に使える、これまでの手書きマーカー指定が不要になります。

これまでのDTPワークフローでは、本文中でルビや太字、下線などを使用する際は、手書きでマーカー指定をしたり、テキストデータ中に記号などの目印を入れる、といったやりかたが一般的でした。制作サイドでは、その指定を頼りに、手動、もしくはテキスト中にタグを入れるなどして作業をしていました。

しかし、InDesignにはWordのスタイルをそのまま読み込む機能があります。これによりWord上であらかじめ本文中の細かい指定をしておくと、InDesignへの流し込みの際に大幅な効率化が図れるようになります。

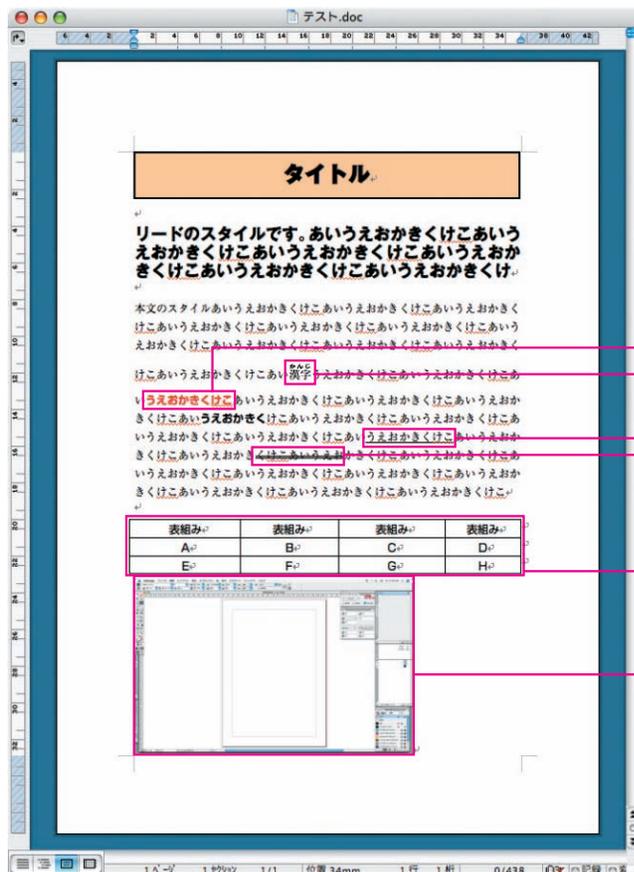
中でもルビに関しては、Word上に入っているルビを忠実に再現してくれるため、能率的にも品質的にも効果絶大です。Wordでルビを入れる際の注意点は「ルビは文字単位でスペースで区切る」という点です。例えば、

- ・漢字→「かん□じ」
- ・意味→「い□み」
- ・注意→「ちゅう□い」

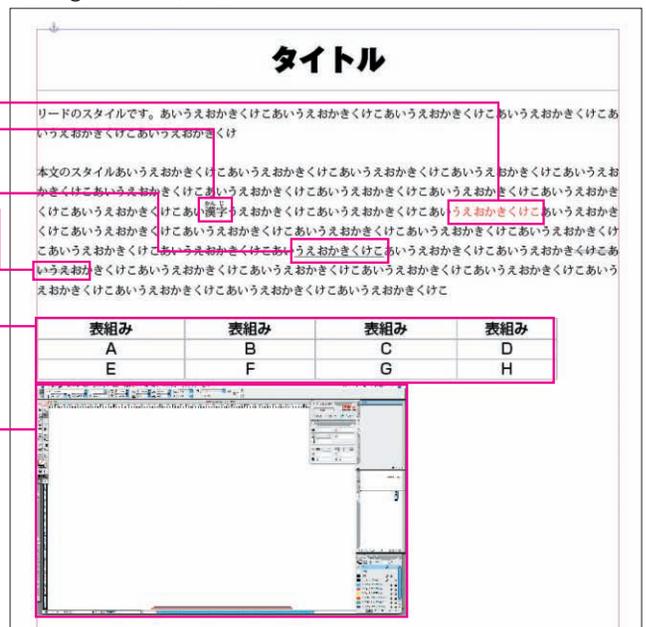
といったようにルビをWord上で入力しておく、ほぼ全自動でInDesign上にもルビが入ります。

他にも、文字飾りのスタイル（太字や下線、色文字）が取り込めます。この際、Word上でスタイルが定義されていれば完璧です。InDesignはWordの段落スタイル・文字スタイルをとともにスタイルシートに取り込みます。これらのスタイルをInDesign上で正規のスタイルに置き換えることで、簡単に本文中の細かな指定を再現することができます。

Wordの画面



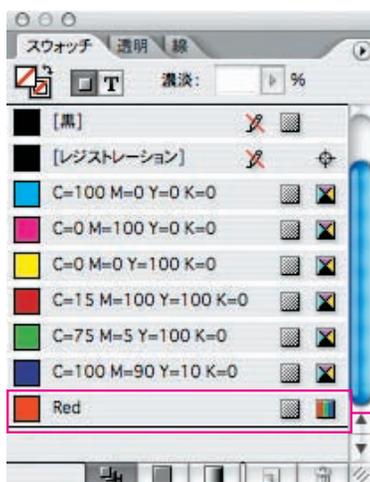
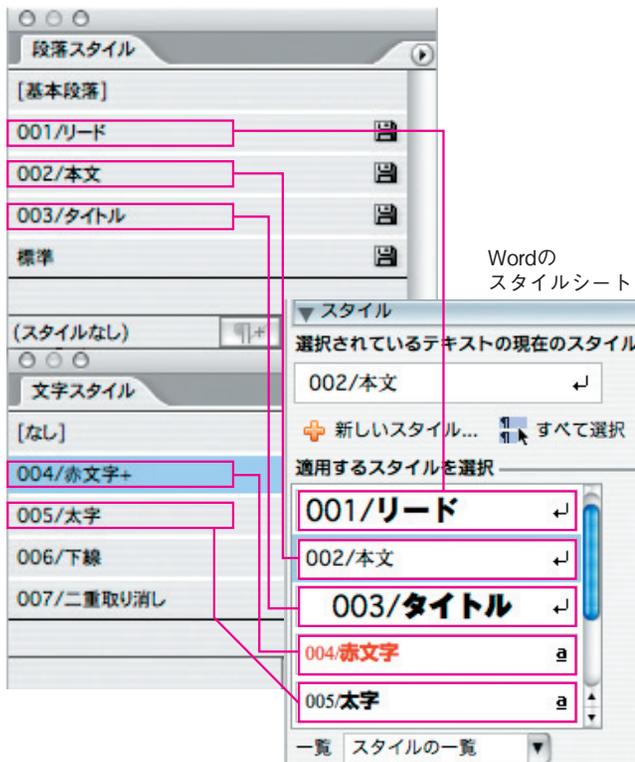
InDesign取り込み後の画面



Wordでの「ルビ」ダイアログ画面



InDesignのスタイルシート



このようにRGB色のスウォッチカラーができてしまいます。

また、表組みやインライングラフィックスも一緒に取り込めます。ただし、これはWord上でテキスト中に挿入されている表や画像に限られます。表に関してはInDesignの表組み機能として取り込まれます。InDesign CS3から搭載された表スタイルの機能を使用すれば、効率よく表組みを作成することができます。

Word上でテキストに挿入されている画像はインライングラフィックスとして取り込まれます。しかし、InDesign上にはリンクではなく埋め込み画像として配置されます。画像が埋め込まれると、InDesignのファイル容量が肥大化してしまうため、ここはリンクで配置しなおす必要があります。配置し直すためには、入稿時にWordに挿入されている画像の元データが必要になるので注意してください。

レイアウト的に複雑でないものであれば、テキストを一括してInDesignに流し込み、Wordのスタイルシートを活用して紙面を整えていくという行程が可能です。この方法では、細かい部分の手動での調整が減るため、確実に精度が向上します。ただし、Wordのデータを取り込むことで、不要なスタイルシートや不要なスウォッチカラーができてしまいます。取り込んだ後に、不要な設定は残さない方が賢明です。特にカラーに関しては、WordがRGBでカラー管理しているため、取り込まれたスウォッチカラーはRGB色になっています。出力時のトラブルを避けるためにも、これは必ず変更しなければなりません。

従来行程で考えると、Wordデータでの入稿はどちらかと言えば嫌がられる存在でした。OS9環境では、Word上でのルビやスタイルを活かすことができず、さらにWordからテキストデータへ書き出すときに、ルビが付いている漢字が抜け落ちてしまうという大きな問題があったためです。しかし、InDesignが多く普及した現在では、Word、InDesign双方の機能を理解しメリットを活かすことで、Wordデータが非常に効率的な入稿データになり得ます。また、Wordデータの完成度がその後の工程を左右するため、この方法をとる場合は、あらかじめ編集サイドと制作サイドの摺り合わせをおこなうことが重要となってきます。

《注意点》

◎漢字によってはルビ付き文字が化けてしまうものがあります。現在、文字化けが確認されているものはWindows用IBM拡張漢字359文字です。弊社では取り込み前にWordデータを一括検索を行い、この文字化けを防いでおります。

◎Word 2007の.docx形式には対応していません。
.docx形式で保存されたファイルを下位バージョン (Word2003、Word2002、Word2000) で開くためには、MicrosoftのサイトからMicrosoft Office互換機能パックをダウンロードする必要があります。